WTOS のセッショントレース機能

2008/04/22

ワイズテクノロジー株式会社

概要

Wyse Thin OS では、ICA/RDP のセッション動作をキャプチャする機能が搭載されています。このキャプチャ機能を利用することにより、ユーザーが Wyse Thin OS 上で捜査する ICA/RDP のセッションをレコーディング、再生することが可能です。本機能は、Wyse Thin OS で捜査する ICA/RDP セッションで発生するトラブルシューティングのために用意されています。このため、通常の操作において、本機能を利用することはありません。また、本キャプチャ機能を実行中は、Wyse Thin OS の著しいパフォーマンス劣化を生じる場合があります。

セッショントレースの取得

[環境]

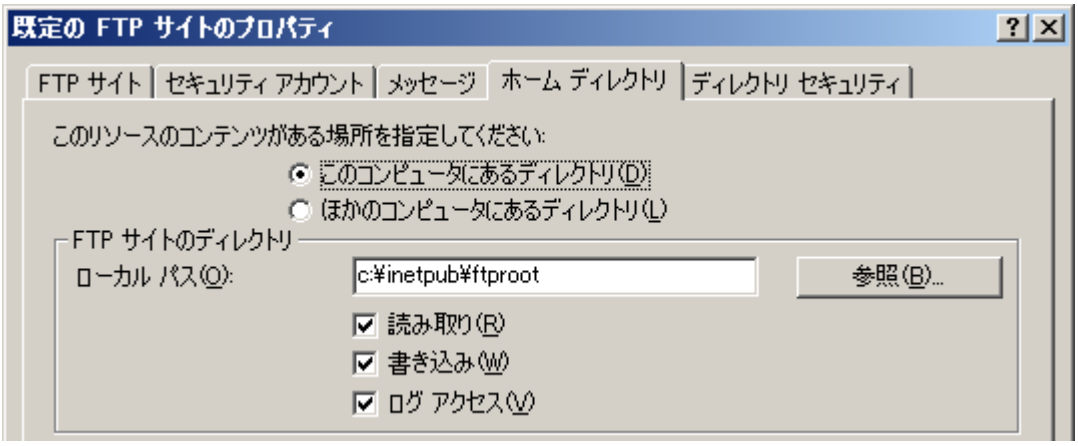
Wyse Thin OS 5.2.035.06

注意：本セッショントレース機能は、Wyse Thin OS バージョン 5.2 以降で追加された機能です。

[手順]

1. FTP サーバー上の Wyse Thin OS 管理ディレクトリ”WNOS”配下に、フォルダ”Trace”を作成します。
   例: ftproot¥inetpub¥wnos¥trace

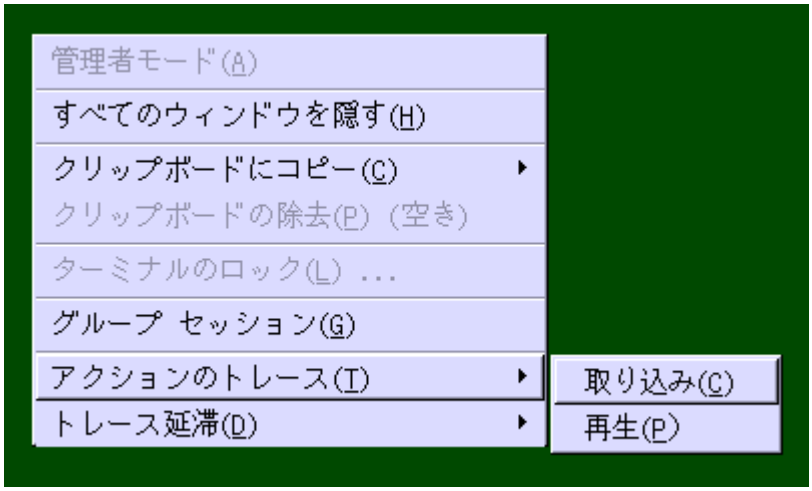
2. 該当の FTP ディレクトリ”trace”に、「読み取り」と「書き込み」の権限が付与されていることを確認します（キャプチャを配置するための権限）。



3. Wnos.ini ファイル上に、トレースを有効にする下記のパラメータを記述します。
   Privilege=high enabletrace=yes
   注意: パラメータ「enabletrace」は、「Privilege」に属するパラメータとなります。
   Pribilege=High の時にのみ有効となります。

4. Wyse Thin OS を起動し、上記で設定した wnos.ini ファイルの設定を反映させます。

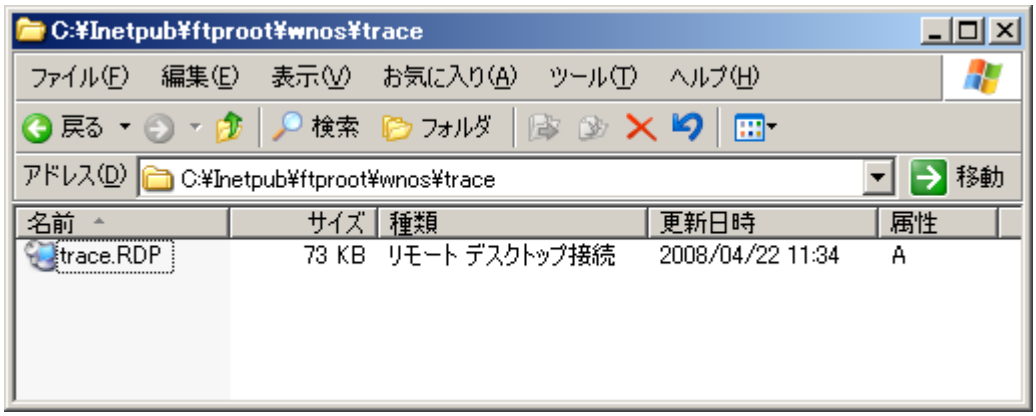
5. Wyse Thin OS 起動後、ローカルのデスクトップ上で右クリックをし、[アクショントレース]→[取り込み]を選択します。



6. Wyse Thin OS より、RDP もしくは、ICA セッションに接続を開始します。
   例:RDP 接続先の 192.168.1.1 の接続先に対して、RDP セッションを作成し、接続を開始します。

7. [取り込み]オプションが有効な場合、FTP サーバー上にセッションのレコーディング(キャプチャ)が開始されます。
   FTP サーバー上の“trace”フォルダ内には、トレースデータ(例: RDP セッションの場合、ファイル名「trace.RDP」が作成される)が作成されます。

   注意: FTP サーバー上にセッションデータがコピー(トレース)され続けるため、RDP/ICA セッションのパフォーマンスが著しく低下します。



8. セッションのログオフや切断を実行すると、自動的にトレースは終了します。

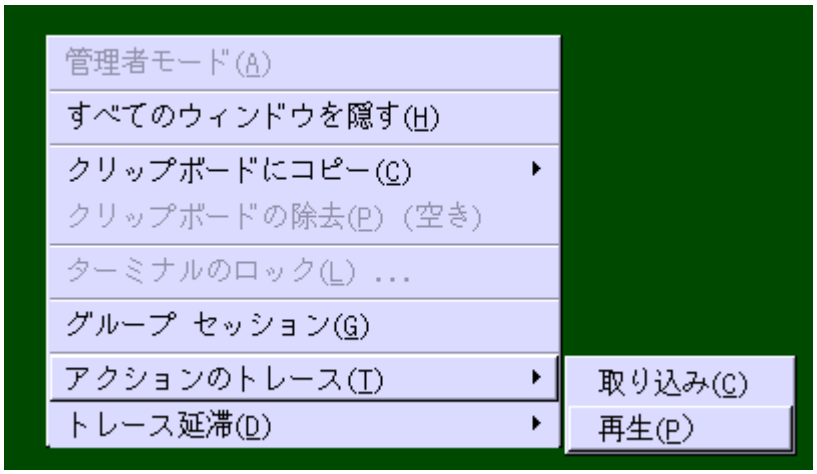
補足設定

セッショントレースの再生

上述のトレース機能で採取したトレースデータを Wyse Thin OS 上で再生する方法を説明します。

[手順]

1. 上述の手順を実施した直後の場合、Wyse Thin OS を再起動します。
2. Wyse Thin OS 起動後、ローカルのデスクトップ上で右クリックをし、[アクショントレース]→[再生]を選択します。



3. 前述 Step 6 で接続した RDP 接続に対して接続を開始します。

4. セッションが開始されると、前述でトレースしたセッションの内容が再生されます。

   注意：アクショントレースで再生を選択した場合、RDP 接続(例:192.168.1.1)に対して接続を開始するのではなく、実際にはトレースデータのある FTP サーバーに対して、TCP 接続を開始、トレースデータの再生を実施しています。

5. トレースデータの再生が終了すると、Wyse Thin OS のローカルデスクトップに戻り、ダイアログ「PLAYBACK – hit EOF」が出力されます。



EOF